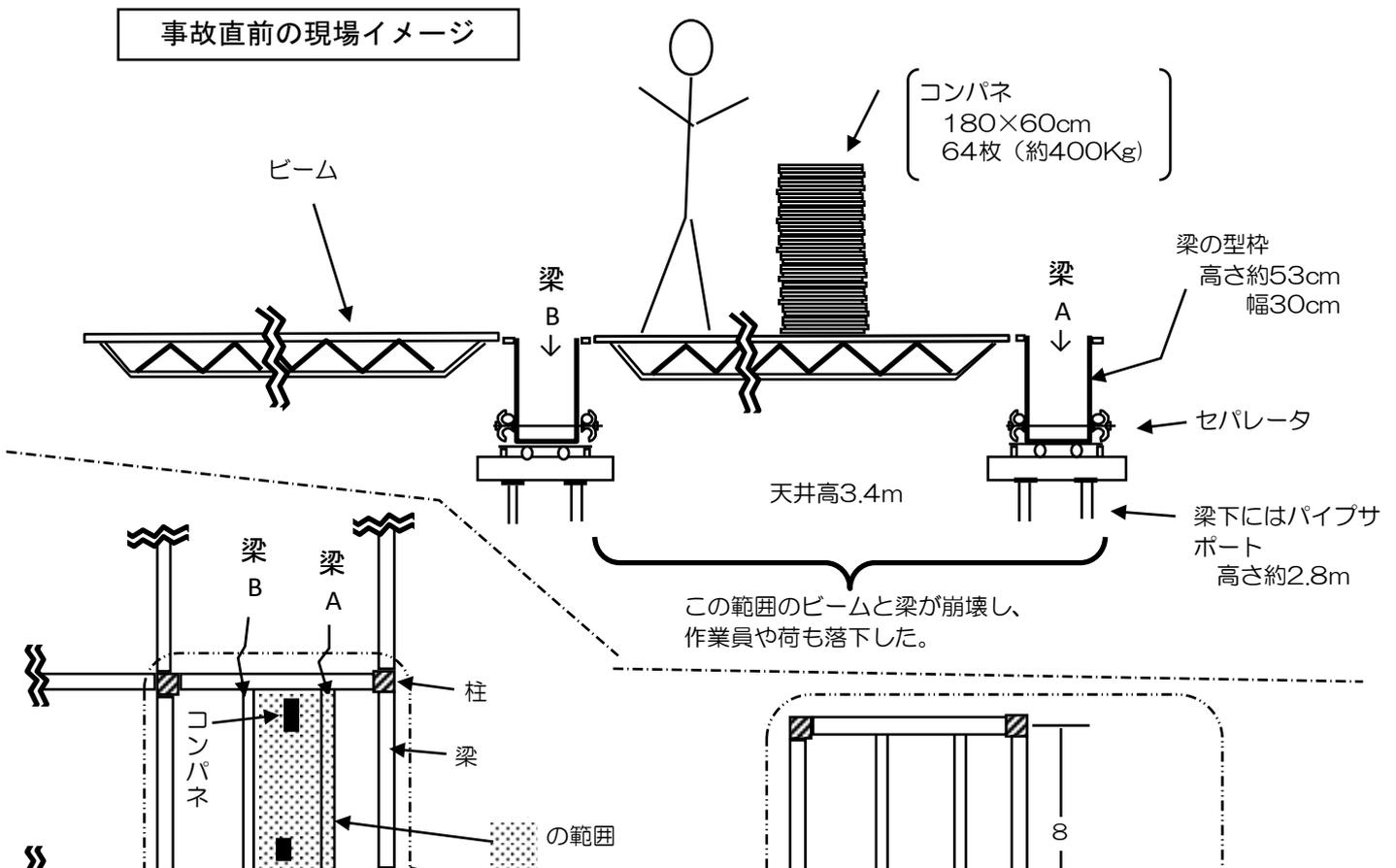
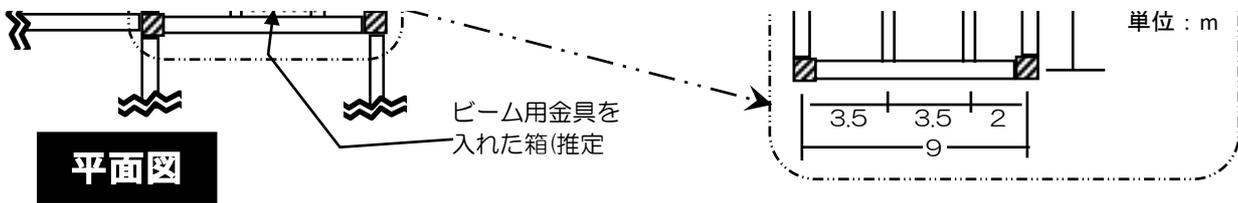


型わく支保工が崩壊し、重大災害に！

— 6月25日付、161号の続報です —

- ☆ 平成22年6月23日(水)午後1時55分ころ、気仙沼市の学校校舎新築工事現場において、型枠組立作業中に型枠の倒壊事故が発生し、当該作業に従事していた作業員4名が巻き込まれる重大災害が発生しました。(「重大災害」とは一時に3名以上が被災したものを言います。)
- ☆ 工事は、市発注で鉄筋コンクリート造3階建て、工期は昨年11月から約1年、元請業者や数次にわたる下請業者などは地場業者です。
- ☆ 事故は、3階の天井部分(高さ約3.4m)の型枠組立て中に発生しました。当該部分は4本の柱でできた9m×8mの四角形の範囲ですが、さらに下図のように2本の小梁で仕切られた3スパンから構成されています。このうち中央のスパンを組み立て中に事故が起きました。
- ☆ 当該スパンには、作業員2名、コンパネ(64枚・約400kg)、ビーム用金具入れ箱(推定500kg)などが載っていました。なお、事故時点では、当該スパンの小梁の横振れ防止措置(梁頂部のベニヤが横方向に動いて開いたり、又は、閉じたりしないようにする)がありませんでした。
- ☆ こうして作業をしていたところ、中央部スパンが崩壊したものです。下方にも2名の作業員がいましたが崩壊時に大きな音がしたため避難し、軽度の打撲傷ですみました。
- ★ 発生原因は現在、所轄監督署で調査中ですが、同署や当支部講師陣である安全コンサルタントの意見を総合すると、「人や荷などの重量により、この付近の型枠全体に横方向に力が働いたこと」が原因と推測されます。
- 作業計画の段階で許容荷重を検討・決定し周知する。荷はこまめに運び上げ過荷重を防ぐ。小梁の横振れ防止措置を早め実施し鉄筋入れ等の直前まで外さない。荷などの負荷がかかる箇所にはコンパネ下に支柱を建てる等により補強する。などの対策が必要と考えられます。





平面図